

5月1日

主な記事

2 令和6年4月採用の市職員を募集

4 5 健脚競い、早春を駆ける



ありがとう10周年

広報 いせはら

Public Relations Paper

ISEHARA

産業能率大学の学生も開会式のセレモニーに協力



地域住民によるボランティアも大活躍

地場で採れた大白菜もたくさん入っています

3月18日・19日、大山名物の豆腐を楽しむイベント「大山とうふまつり」が4年ぶりに行われました。市営大山第2駐車場では直径4メートルの大鍋(仙人鍋)で煮立てた湯豆腐が振る舞われたほか、周辺の飲食店ではさまざまな割引サービスが行われました。

参加者の一人は「特産品を再認識する良い機会。豊かな自然に囲まれているため、きれいな空気も相まって食べやすく感じた。いろいろなお店を食べ歩き、地元の味を堪能したい」と話しました。



のどごしが良い豆腐に思わず笑顔

30回の節目を契機に、若い世代に思いをつなぐ

地域活性化と観光PRのため、平成元(1989)年に飲食店を営む若手が集まり、実行委員会を組織。コロナ禍などの影響で、開催できない年もありましたが、地元の皆さんに支えられ今年で30回目を迎えることができました。

当初30歳代が中心だったメンバー20人も、高齢になり現在は5人に。知名度も上がり、一定の目標は達成できました。そのため、今回で一つ

の区切りとし、若い世代に引き継ぎたいと考えています。まつりの形式は変わっても、地元愛がつまったイベントが続くことを願っています。



大山とうふまつり
実行委員会
委員長 小川 恵巳さん
(69歳・大山)